
魔法の箱

柊 六花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法の箱

【Nコード】

N2120S

【作者名】

柊 六花

【あらすじ】

子供の成長を楽しみにする父親と、子供のたわいもない会話です。コバルト文庫『ベスト・ショート ショート』で、もう一步の作品になったものです。

「お父さん、これなあに？」

父親の手の平に乗せられた綺麗な箱を見て、息子が聞いた。
身を乗り出して箱を見つめる息子に父親は笑う。

「これはね、魔法の箱だよ」

「魔法の箱？」

「そう、魔法の箱」

父親はソファーの前の円卓に箱を置いた。

子供は、円卓に移された箱をじっくり見ようと、ソファーの上からぴよんと降りた。

円卓とソファーの間は子供にとっては意外と距離がある。

「何が入ってるの？」

目をきらきら輝かせながら聞く息子を見て、父親が答える。

「言っただろ、魔法の箱だって。何でも入ってるよ」

「何でも？」

「そう、何でも」

子供は四角い箱をしげしげと見つめた。

「お菓子、入ってるかな？」

「入ってるよ。お前が食べきれないくらい」

「そんなにいっぱい？」

意地悪そうに言った父親に、子供は目をぱちくりさせる。

「他には何が入ってると思う？」

「えっと……怪獣さん、入ってるかな？」

父親は楽しそうに笑みを浮かべた。

「入ってるけど、もし出てきたら大変だな。火を吹いて町で大暴れするかもしれない」

大丈夫、と子供は無邪気な顔を向けた。

「出てきたら、僕が友達になるよ」

そうか、と父親は豪快に笑った。

「……ねえ、開けていい？」

「ん？」

聞かれて、父親は少し困ったような表情を浮かべる。

「実はこの箱、鍵がないんだよ」

えっ、と子供が箱を開けようとすると、蓋は固く閉じられている。箱の側面には、小さな鍵穴が一つ。

「お父さん、開かないよ……」

「困ったな」

子供を抱きかかえて膝の上に乗せた。子供は何かして開けようと、父親の膝の上で必死に箱をいじっている。

「でも、お父さんは鍵持ってるんだよ」

ぱっと子供が振り返る。

「持ってるの？」

「うん。でも、この鍵はお父さんの鍵で、お前にはお前の鍵があるんだよ」

「僕の鍵？」

「そう、お前だけの鍵だ」

子供は考え込む。

「何処にあるの？」

「さて、何処だろうな。お前が大きくなったら、見つかるかもしれない」

息子の頭をなでながら父親は優しく語る。

「お父さんはどうやって見つけたの？」

「ある時、急に目の前に現れたんだ」

「急に？ 魔法みたいに？」

「そう、魔法の箱の鍵だからね」

父親は少しだけ淋しそうに笑った。

子供は、ふふんと箱を見つめた。

「……僕も見つかるといいな」

「そうか？ お父さんは見つからないといいな」

子供は頬を膨らませた。

「お父さんのいじわる」

父親は笑い、息子の頭に手を乗せる。

「この箱はね、お父さんがお前くらいの時、お父さんのお父さん、つまりお前のおじいちゃんに貰ったんだ」

「おじいちゃんに？」

父親は、うん、と頷いて、

「それでお前と同じことを言われたんだよ」と言った。

「同じことって？」

「見つからないといいな、って」

子供は、うん、と小さくうなる。

「おじいちゃんも意地悪だ」

「そうだな」

父親は苦笑した。

「この箱、お前にあげるよ」

子供の心に、ぱつと明るい光が射す。

「いいの？」

「今日からお前のだ」

子供は嬉しそうに笑顔を見せると、箱を手に、父親の膝から飛び降りた。

そつと耳に当ててみる。

子供の手には余る、ちよつと大きめの箱。

ふわりと笑みを浮かべた子供の耳に、怪獣の寝息が聞こえていた。

【終】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2120s/>

魔法の箱

2011年11月13日21時48分発行